

滝川市における交通事故の推移と発生状況

1 全国・北海道・滝川市の交通事故発生件数・死者数・負傷者数の推移

交通事故発生件数及び死傷者数は、第8次計画の最終年（平成22年）と第9次計画平均を比較すると、全国、北海道及び滝川市ともに減少していますが、滝川市においては平成27年に6件（統計外死亡事故を含めると7件）の死亡交通事故が発生したため、当該年の数値は増となっています。

注1 指数は、第8次計画最終年である平成22年数値を100とした数値です。

2 空知の初年（H18）・第8次計画期間（H18-22）平均値は記載を省略しています。

（1）発生件数

		第7次計画期間（H18-22）			第8次計画期間（H23-27）					
		初年（H18）	最終年（H22）	平均	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平均
全 国	件数	887,267	725,924	789,985	692,084	665,157	629,033	573,842	536,899	619,403
	指数	122.2	100	108.8	95.3	91.6	86.7	79	74	85.3
北海道	件数	26,967	18,088	21,846	16,395	14,973	13,722	12,274	11,123	13,697
	指数	149.1	100	120.8	90.6	82.8	75.9	67.9	61.5	75.7
滝川市	件数	203	113	153	108	97	91	74	74	89
	指数	179.6	100	135.2	95.6	85.8	80.5	65.5	65.5	78.6

（2）死者数

		第7次計画期間（H18-22）			第8次計画期間（H23-27）					
		初年（H18）	最終年（H22）	平均	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平均
全 国	件数	6,415	4,948	5,469	4,691	4,438	4,388	4,113	4,117	4,349
	指数	129.6	100	110.5	94.8	89.7	88.7	83.1	83.2	87.9
北海道	件数	277	215	245	190	200	184	169	177	184
	指数	128.8	100	113.9	88.4	93	85.6	78.6	82.3	85.6
滝川市	件数	3	2	3	0	1	1	1	6	2
	指数	150	100	130	0	50	50	50	300	90

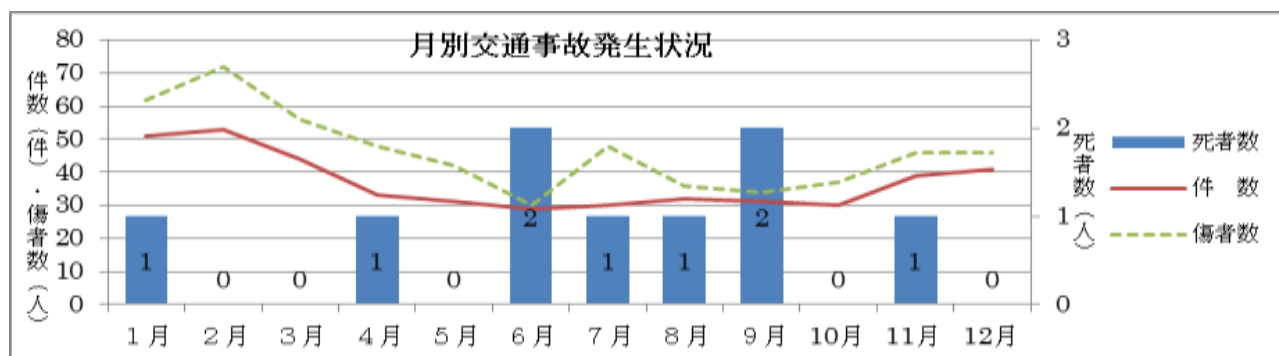
（3）傷者数

		第7次計画期間（H18-22）			第8次計画期間（H23-27）					
		初年（H18）	最終年（H22）	平均	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平均
全 国	件数	1,098,564	896,297	977,286	854,613	825,392	781,492	711,374	666,023	767,779
	指数	122.6	100	109	95.3	92.1	87.2	79.4	74.3	85.7
北海道	件数	33,696	22,096	26,930	19,705	18,048	16,247	14,571	13,117	16,338
	指数	152.5	100	121.9	89.2	81.7	73.5	65.9	59.4	73.9
滝川市	件数	267	129	189	128	124	118	93	94	111
	指数	207	100	146.5	99.2	96.1	91.5	72.1	72.9	86.4

2 月別交通事故発生状況（H23-27合計）

月別の死者数では、最も多いのは6月と9月で、総体的に夏に多い傾向となっており、冬期間については比較的死亡事故は少なくなっています。

また、件数・傷者数については、2月が最も多くなっており、冬期間に増加する傾向があります。

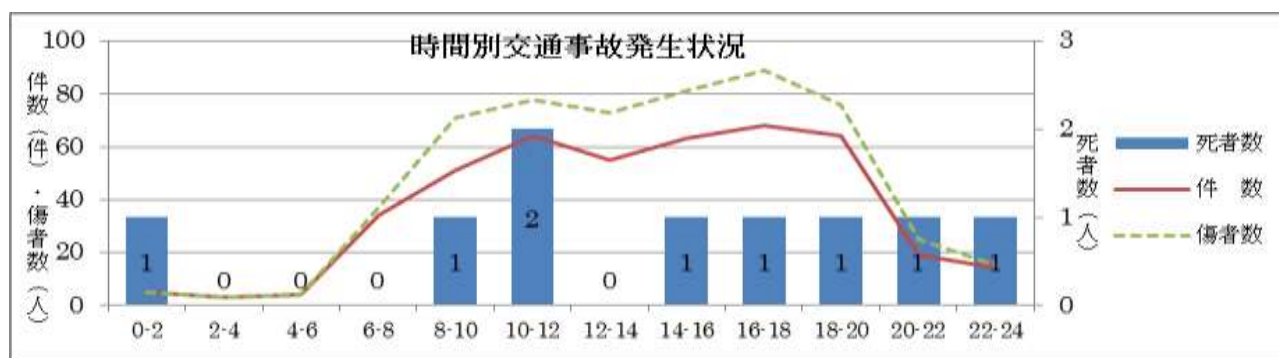


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
死者数	1	0	0	1	0	2	1	1	2	0	1	0
件数	51	53	44	33	31	29	30	32	31	30	39	41
傷者数	62	72	56	48	42	30	48	36	34	37	46	46

3 時間別交通事故発生状況（H23-27合計）

2時間ごとに見た発生時間別の死者数では、最も多いのは10時から12時ですが、比較的14時から2時までの間にまんべんなく発生しています。

また、件数・傷者数については、16時から18時が最も多くなっており、0時から6時までは少なくなっています。

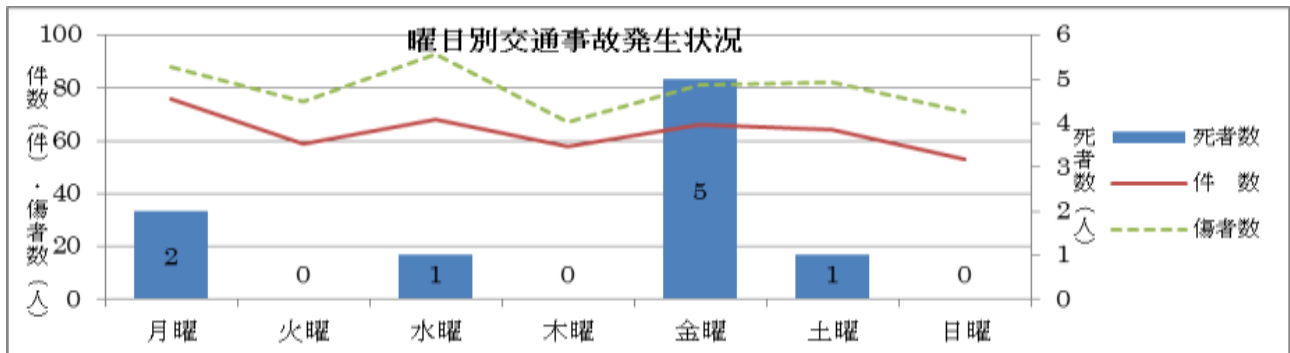


	0-2	2-4	4-6	6-8	8-10	10-12	12-14	14-16	16-18	18-20	20-22	22-24
死者数	1	0	0	0	1	2	0	1	1	1	1	1
件数	5	3	4	34	51	64	55	63	68	64	19	14
傷者数	5	3	4	37	71	78	73	81	89	76	25	15

4 曜日別交通事故発生状況（H23-27合計）

曜日ごとに見た発生時間別の死者数では、最も多いのは金曜日となっています。

また、件数・傷者数については、曜日にかかわらずまんべんなく起きていますが、日曜日はやや少なくなっています。

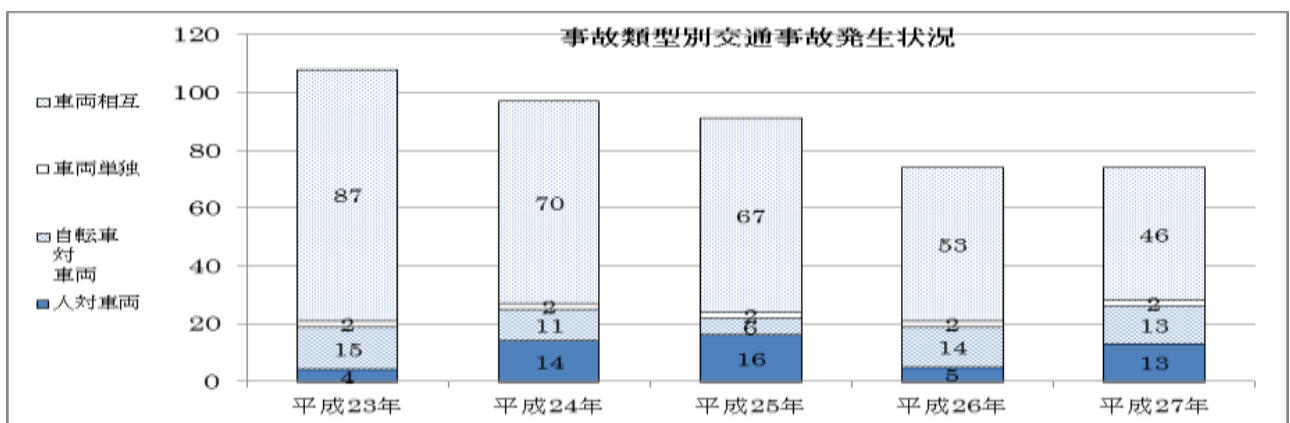


	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
死者数	2	0	1	0	5	1	0
件 数	76	59	68	58	66	64	53
傷者数	88	75	93	67	81	82	71

5 事故類型別交通事故発生状況

（1） 全体的状況

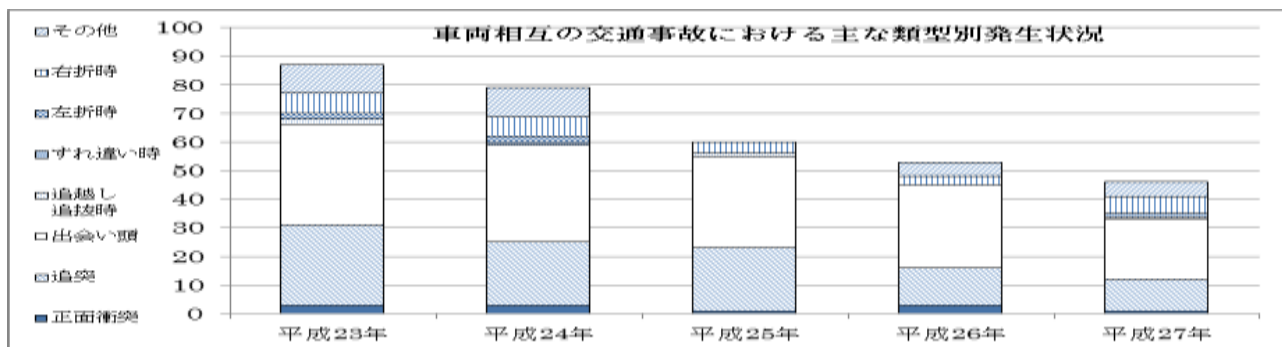
平成23年から平成27年までの間に交通事故が444件発生しました。事故類型別では、最も多いのは車両相互323件（72.7%）で、以下自転車対車両59件（13.3%）、人対車両52件（11.7%）、車両単独10件（2.3%）でした。



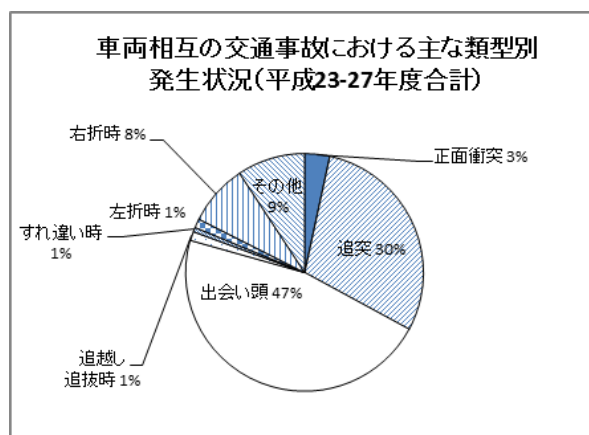
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
人対車両	4	14	16	5	13
自転車対車両	15	11	6	14	13
車両単独	2	2	2	2	2
車両相互	87	70	67	53	46

(2) 車両相互の交通事故における主な類型別発生状況

平成23年から平成27年までの車両相互の交通事故323件のうち、状態別では、最も多いのは出会い頭151件（46.7%）で、以下追突96件（29.7%）、右折時27件（8.4%）などでした。

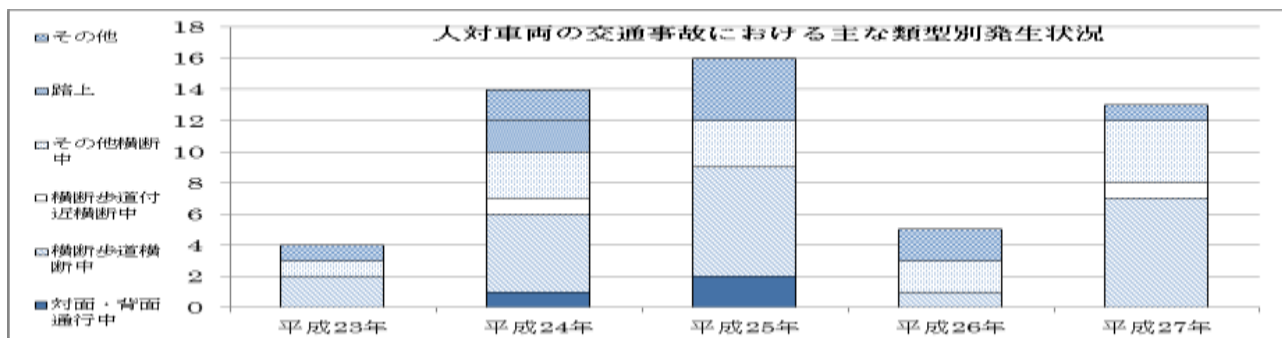


	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
正面衝突	3	3	1	3	1
追突	28	22	22	13	11
出会い頭	35	34	32	29	21
追越し追抜時	2	0	1	0	1
すれ違い時	0	1	0	0	1
左折時	2	2	0	0	0
右折時	7	7	4	3	6
その他	10	10	0	5	5

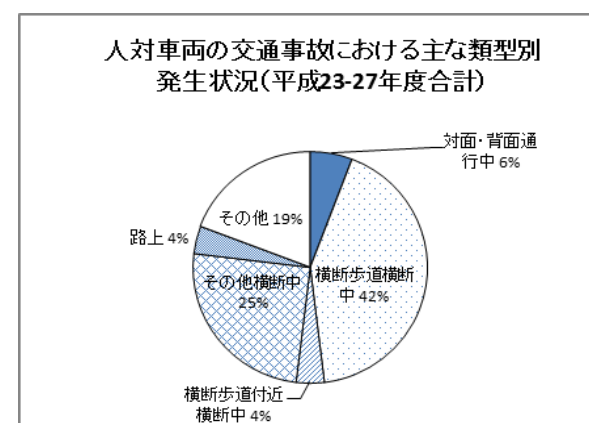


(3) 人対車両の交通事故における主な類型別発生状況

平成23年から平成27年までの人対車両の交通事故52件のうち、状態別では、最も多いのは横断歩道横断中22件（42.3%）で、以下その他横断中13件（25.0%）などでした。

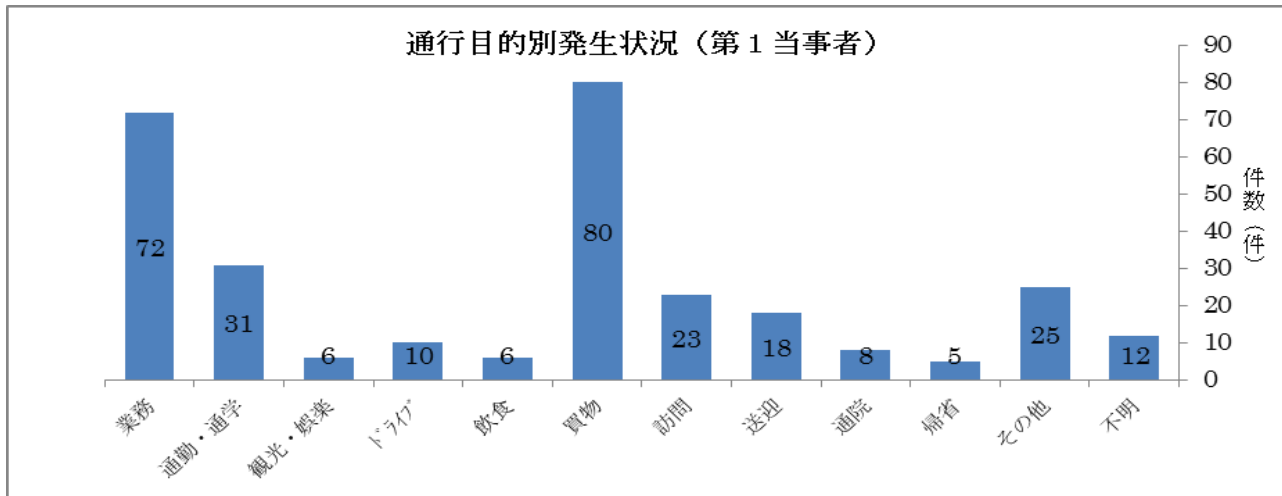


	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
対面・背面通行中	0	1	2	0	0
横断歩道横断中	2	5	7	1	7
横断歩道付近横断中	0	1	0	0	1
その他横断中	1	3	3	2	4
路上	0	2	0	0	0
その他	1	2	4	2	1



6 第1当事者の通行目的別発生状況（H23-27合計）

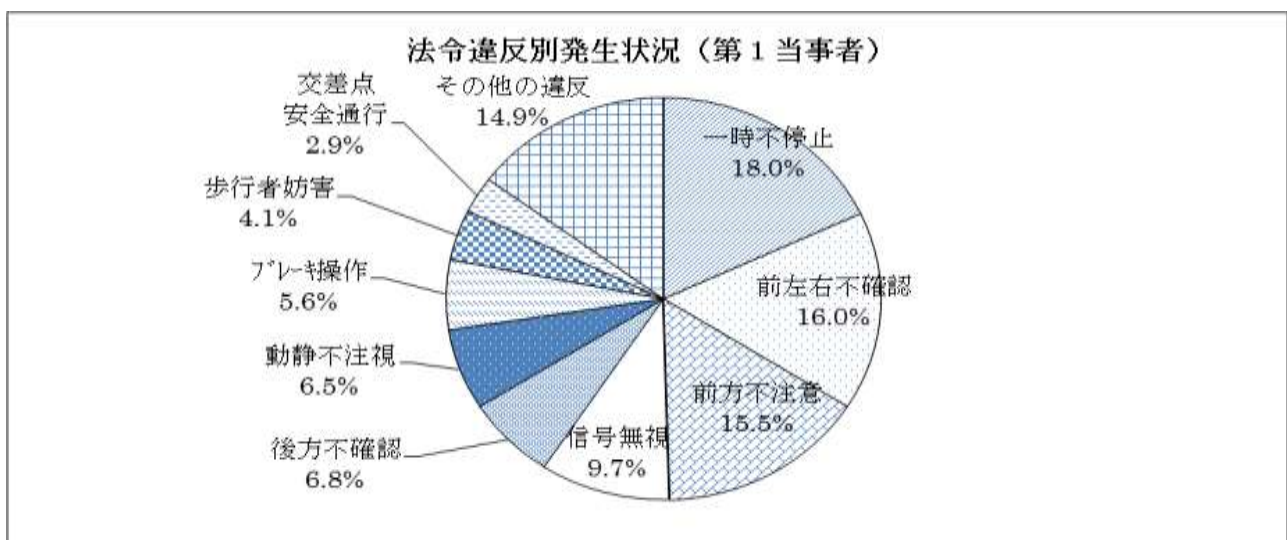
平成23年から平成27年までの交通事故444件の第1当事者（交通事故に関係したもののうち過失が最も多い者をいう。以下同じ。）の通行目的別発生件数では、最も多いのは買物80件（18.0%）で、以下業務72件（16.2%）、通勤・通学31件（7.0%）などでした。



	業務	通勤・通学	観光・娯楽	ドライブ	飲食	買物	訪問	送迎	通院	帰省	その他	不明
件数	72	31	6	10	6	80	23	18	8	5	25	12

7 第1当事者の法令違反別発生状況（H23-27合計）

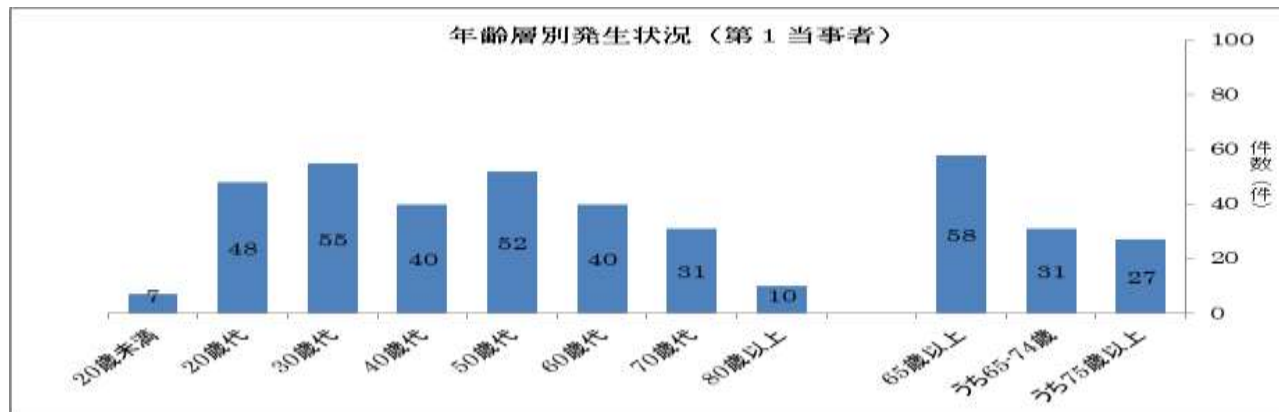
平成23年から平成27年までの交通事故444件の第1当事者の法令違反別発生件数では、最も多いのは一時不停止80件（18.0%）で、以下前左右不確認71件（16.0%）、前方不注意69件（15.5%）、信号無視43件（9.7%）などでした。



	一時不停止	前左右不確認	前方不注意	信号無視	後方不確認	動静不注視	ブレーキ操作	歩行者妨害	交差点安全通行	その他の違反
件数	80	71	69	43	30	29	25	18	13	66
率	18.0%	16.0%	15.5%	9.7%	6.8%	6.5%	5.6%	4.1%	2.9%	14.9%

8 第一当事者の年齢層別発生状況（H23-27合計）

平成23年から平成27年までの交通事故444件の第1当事者の年齢層別発生件数では、最も多いのは30歳代55件（12.4%）で、以下50歳代52件（11.7%）、20歳代48件（10.8%）などでした。

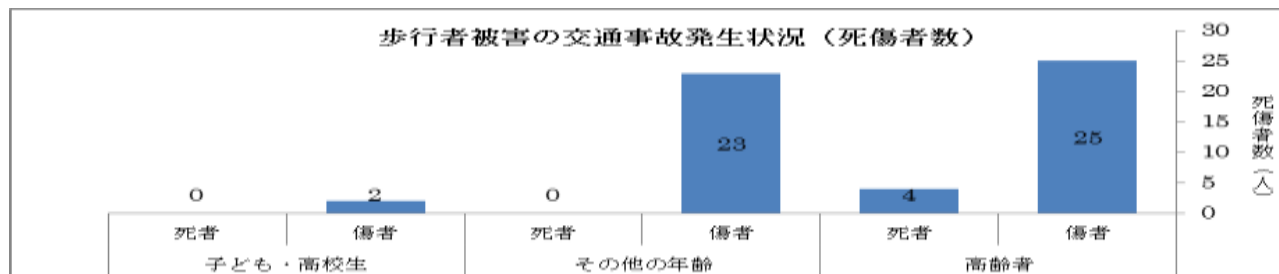


	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上		65歳以上	うち65-74歳	うち75歳以上
件数	7	48	55	40	52	40	31	10		58	31	27

9 歩行者被害の交通事故発生状況（H23-27合計）

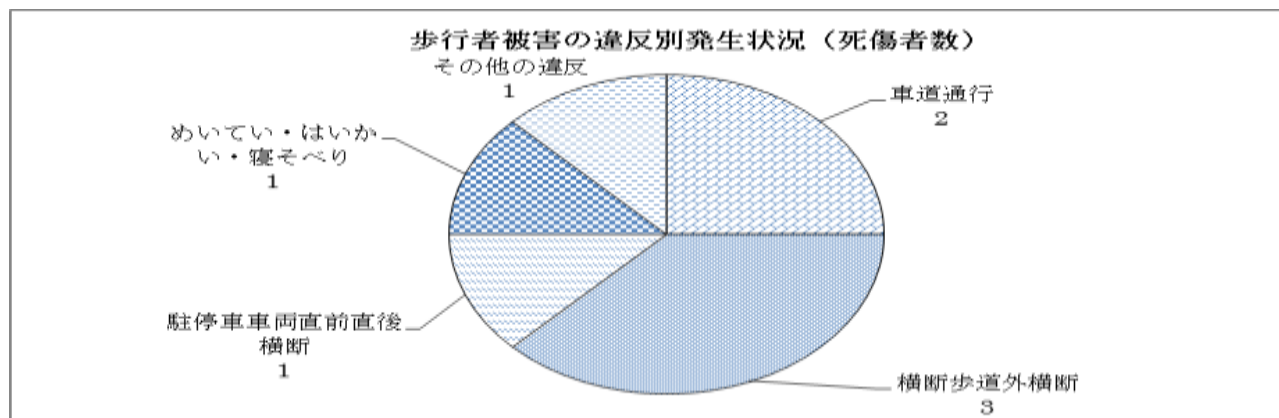
（1）死傷者

歩行者被害における死傷者数は、世代別では、最も多いのは高齢者29人（53.7%）で、次いでその他の年齢23人（42.6%）でした。



（2）違反別発生状況（死傷者数）

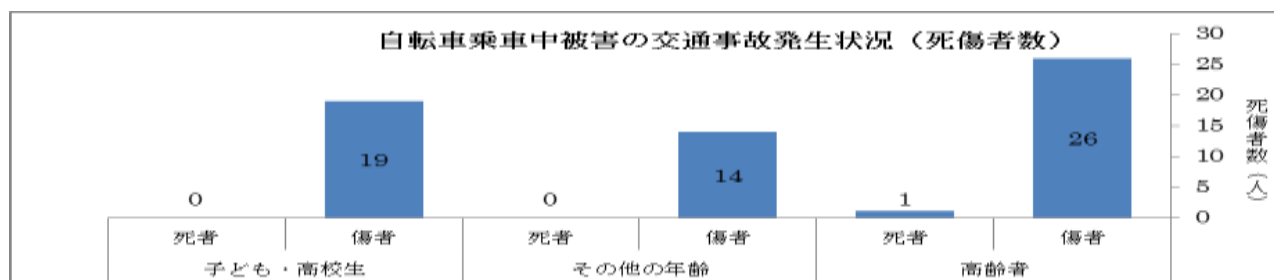
違反別で見ると、横断歩道外横断3人（37.5%）で、次いで車道通行2人（25.0%）でした。歩行中の死傷者54人のうち46人（85.2%）が違反を犯していませんでした。



10 自転車乗車中被害の交通事故発生状況（H23-27合計）

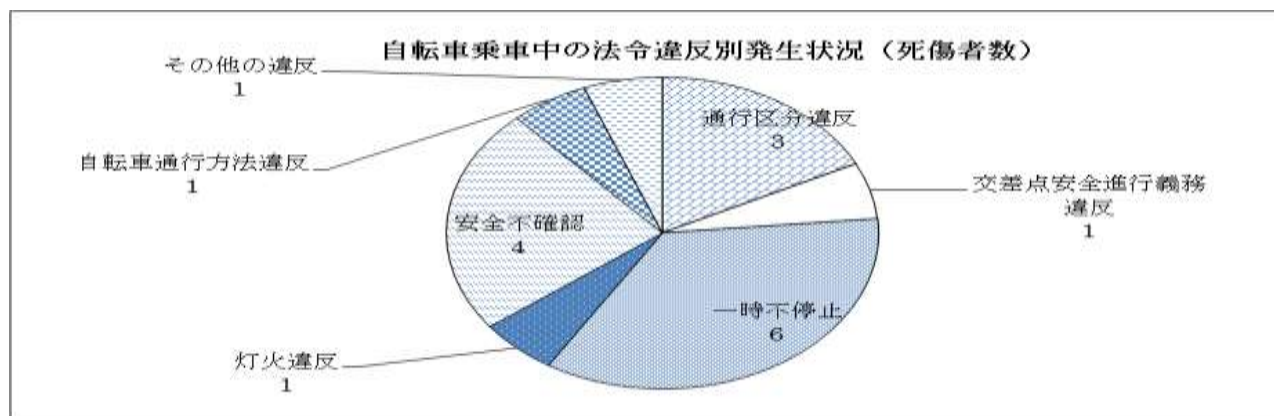
（1）死傷者

歩行者被害における死傷者数は、世代別では、最も多いのは高齢者27人（45.0％）で、次いで子ども・高校生19人（31.7％）でした。



（2）違反別発生状況（死傷者数）

違反別で見ると、最も多いのは一時不停止 6 人（35.3％）、以下安全不確認 4 人（23.5％）、通行区分違反 3 人（17.6％）などでした。自転車乗車中の死傷者60人のうち43人（71.7％）が違反を犯していませんでした。



11 道路別交通事故発生状況

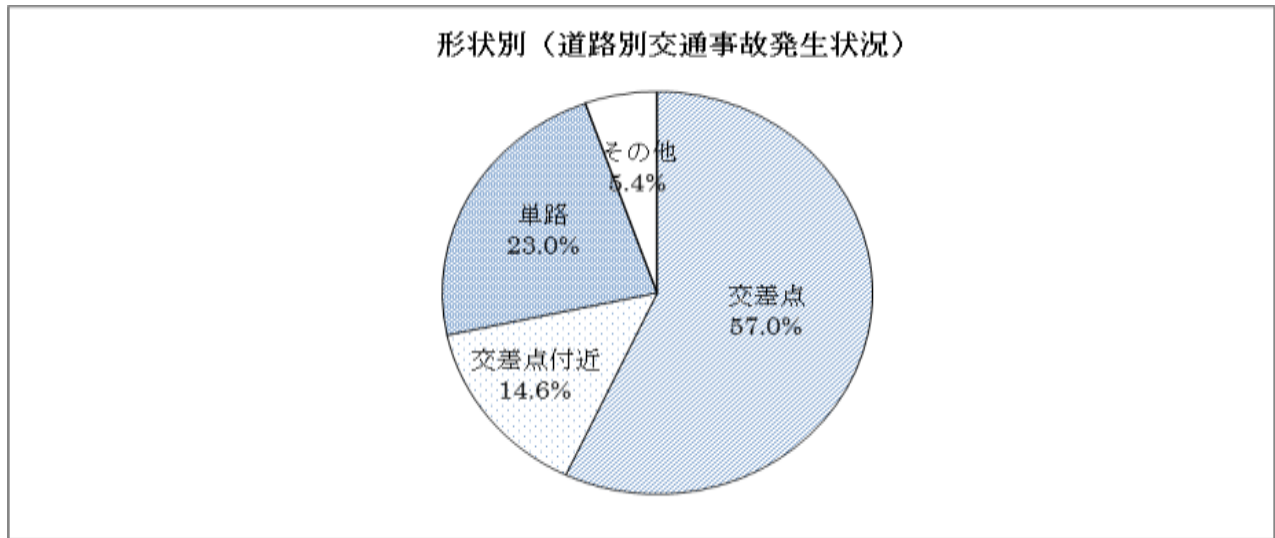
（1）道路別

道路別では、平成23年から平成27年までの期間中の合計で、最も多いのは市道235件（52.9％）で、以下国道174件（39.2％）、高速道路 8 件（1.8％）、道道 4 件（0.9％）の順でした。

	国道				道道	市道	高速国道	その他	計
	国道12号	国道38号	国道451号	小計					
平成23年	32	9	8	49	0	54	2	3	108
平成24年	29	5	1	35	1	54	2	5	97
平成25年	21	9	2	32	2	45	3	9	91
平成26年	18	9	4	31	0	38	1	4	74
平成27年	21	4	2	27	1	44	0	2	74
計	121	36	17	174	4	235	8	23	444

(2) 形状別（H23-27合計）

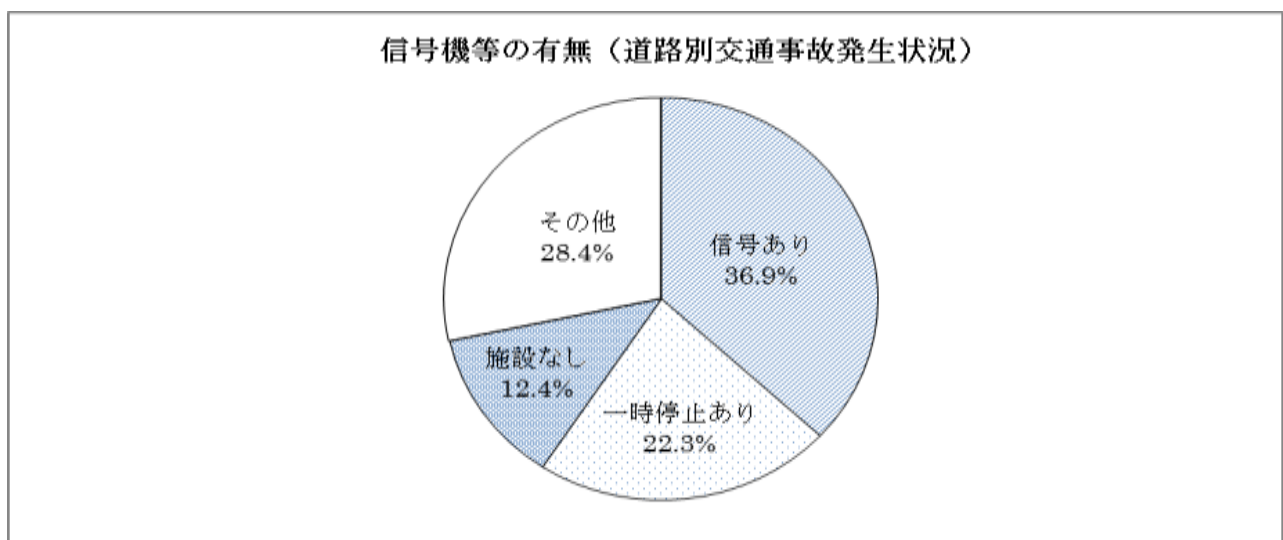
平成23年から平成27年までの交通事故444件の道路形状別発生件数では、最も多いのは交差点253件（57.0%）で、以下交差点付近65件（14.6%）、単路102件（23.0%）などでした。



	交差点	交差点付近	単路	その他
件数	253	65	102	24
率	57.0%	14.6%	23.0%	5.4%

(3) 信号機等の有無（H23-27合計）

平成23年から平成27年までの交通事故444件の信号機等の有無による発生件数では、最も多いのは信号あり164件（36.9%）で、以下一時停止あり99件（22.3%）、施設なし55件（12.4%）などでした。



	信号あり	一時停止あり	施設なし	その他
件数	164	99	55	126
率	36.9%	22.3%	12.4%	28.4%

まとめ

(事故の特徴)

1 交通事故発生件数は減少

第8次滝川市交通安全計画期間中に市内で発生した交通事故の件数及び死傷者数は、第7次滝川市交通安全計画期間中と比較すると減少していますが、平成27年には交通死亡事故が6件（統計外死亡事故を含めると7件）発生するという残念な事態となってしまいました。

また、交通死亡事故は6～9月の夏に多い傾向にありますが、交通事故全体の件数・傷者数は1～3月の冬に多い傾向が見られます。

2 人対車両の事故割合が徐々に増加

事故類型別では、「車両相互」が事故全体の72.7%を占めて最も多く発生し、以下「自転車対車両」13.3%、「人対車両」11.7%、「車両単独」2.3%でした。「人対車両」の事故による負傷者数の減少幅は他の事故と比べて少なく、全交通事故に占める割合がゆるやかに増加しています。

3 事故原因は運転手等の不注意によるものが多い

事故の原因別では、「一時不停止」が最も多く発生し、以下「前左右不確認」、「前方不注意」、「信号無視」などを原因とする事故が多く発生しています。

歩行者の交通事故の原因では、「横断歩道外横断」、「車道通行」など無理な横断などによるものが多く発生しています。

自転車の交通事故の原因では、「一時不停止」、「安全不確認」、「通行区分違反」など車両がないとの思い込みや油断によるものが多く発生しています。

4 加害者に多い若者と高齢者層のドライバー

加害者の年齢層別発生件数では、「30歳以下」と「30歳代」がともに55件でそれぞれ12.4%ずつを占め、「65歳以上」の高齢者が58件13.0%となっており、若者と高齢者ドライバーの事故が比較的多くなっています。

5 歩行者・自転車乗車中被害ともに多い高齢者と自転車乗車中被害が多い子ども・高校生

歩行者被害では、「65歳以上」の高齢者が53.7%を占めていますが、子ども・高校生は3.7%と他の年齢と比較して少なくなっています。

自転車乗車中被害では、「65歳以上」の高齢者が45.0%で、比率の高い状態は変わりませんが、子ども・高校生も31.7%と比率が高くなっています。

6 信号機等のある交差点で多くの交通事故が発生している

道路別では、「市道」が52.95%で最も多くの事故が発生しており、続いて「国道」で39.2%の事故が発生しています。

道路形状別では、「交差点」が57.0%で最も多くの事故が発生しており、以下「単路」23.0%、「交差点付近」14.6%でした。

信号機等の有無別では、「信号あり」が36.9%で最も多くの事故が発生しており、以下「一停あり」22.3%、「施設なし」12.4%でした。

(課題)

1 交通安全意識の啓発

滝川市では、信号機や一時停止標識のある場所で全体の約6割の交通事故が発生しています。交通事故の原因は、「一時不停止」、「前左右不確認」、「前方不注意」、「信号無視」などで、車両運転者ばかりでなく自転車や歩行者も含め、油断や思い込みなどの不注意に起因するものが多いとなっています。

少子高齢社会が進展する中、高齢者ドライバーが加害者となる交通事故の割合の増加や死亡交通事故の犠牲者の多くを高齢者が占めるようになってきました。これは加齢による身体機能の低下により、視野が狭くなることや動体視力の低下、反射的な動作や判断の速さ、正確さに問題が生ずるといった要因が考えられます。

また、自転車被害については、高齢者はもちろんのこと、子ども・高校生にも多いことからそれぞれの世代に応じた対策が必要と考えられます。

さらに死亡事故の発生にはつながっていないものの、事故の多発する冬道における交通事故への取組も行っていく必要があります。

今後も交通事故を防止していくため、市民1人ひとりが交通ルールを遵守しマナーを実践していくとともに、自動車等と比べ弱い立場にある歩行者、高齢者等の交通弱者に関する知識や思いやりの心を育むことが重要であるため、世代や状態、季節に応じた「交通安全教育」や「交通安全運動」による交通安全意識の向上を図る必要があります。

2 交通安全環境の整備

滝川市の交通事故は、国道と道道で40.1%、市道で52.9%発生しています。道路延長は、市道が約454kmと国道の約15倍、道道の約30倍となっており、膨大な延長の市道において効果的に交通安全対策を実施していく必要があります。

学校周辺や通学路などにおける交通危険箇所等に関する情報を学校、教育委員会、道路管理者、警察などの関係機関・団体が共有し、地域のニーズや交通事故データに基づき、交通安全環境の整備を図る必要があります。

また、子どもや高齢者等が安心して移動することができるよう、歩行者・自転車の通行空間の確保を推進していく必要があります。